

令和7年度小江原小学校学力向上プラン

【学校教育目標の実現】

『心豊かで 自ら学ぶ 小江原っ子の育成』

～自律し、尊重し合う子どもを育てる～

「ねばり強く学び合う子」 「心と体をきたえる子」 「互いに理解し支え合う子」

【学力向上の取組】

自己調整しながら 自ら学びを進める子どもの育成 ～個別最適な学びを取り入れた授業改善～

◎校内研究を推進し、個別最適な学びを取り入れた授業改善を行う。特に以下の点を中心に行い、子どもたちの自己調整力の向上、自ら学びを進める子どもの育成を図る。

＜主体的に学びに向かうために＞

- 魅力的な学習課題の設定
- 学習時間の柔軟な提供
- 学び方の提供

＜自己調整ができるために＞

- 自己決定、選択できる教育環境の工夫 【だれと学ぶ？】
- 【何で学ぶ？】【どこで学ぶ？】

家庭学習・学習規律の定着

- ◎「算数」「漢字」「音読」「キュービナの活用」など、家庭学習に関する共通理解・実践
- ◎コミュニケーション能力の育成、話す・聞く力の土台作りとして「ばるっ子タイム」を実践する。
- 国・県・市学力調査結果の検証に基づく実践
- 「家庭学習の手引き」や「学びの習慣化メソッド」の保護者への啓発

読書指導の充実

- 国語科における並行読書や多読の推進
- 教職員によるおすすめの本の紹介
- 図書ボランティアによる昼休みの読み読みの実施

【本校の児童の実態】

- 与えられた課題にしっかり取り組む児童が多い。
- 興味があることへの学習意欲が高い。
- これまでの国語科を中心とした校内研究の積み重ねにより、国語科の学びの有用性や汎用性を理解している児童が多い。
- ▲自ら学びに向かう力が十分育っていない。
- ▲人の話を最後まで聞くことができない児童が多い。
- ▲知識を活用して「考える」「書く」「説明する」など、思考力・表現力が十分でない。

【令和7年度学力調査の結果から】

- 6年生は、国語科・算数科ともに、全国平均を上回っている。
- ▼5年生は、国語科は県平均を上回っている。算数科はやや下回っている。
- ▼4年生は国語科・算数科ともに市平均を下回っている。
- ▼3年生は、国語科・算数科ともに市平均を下回っている。
- ◇国語科では、「文章を書く力」「言語に関する力」に課題がある。
- ◇算数科では、「知識を活用して書く」ことに課題がある。
- ※「基礎的な知識・技能の定着」「論理的に考え・表現する力の向上」が全ての教科において必要である。
- ※教育活動全般において、児童に「委ねる」取組を推進し、社会性をより育むことが必要である。